

協働事業の推進に向けて

～平成19年度協働事業提案に基づく提言～

平成19年11月

柏市協働事業提案選考委員会

目 次

1	二次選考（最終選考）結果及び通過案への提言 1 頁 ~
2	最終選考を終えて（大内田鶴子委員長） 3 頁 ~
3	今年度の経過とプロセス改善への取り組み 4 頁 ~
4	今後の制度運用における重点課題 6 頁 ~
5	まとめ 7 頁 ~

協働事業提案選考委員名簿（委員長，副委員長）

大内田鶴子	学識経験者（江戸川大学社会学部ライフデザイン学科教授）
渡辺元	学識経験者（（特活）市民社会創造ファンド運営委員）
金井円	公募市民
松永敏明	公募市民
熊谷道子	ミニシアターはらぺこくん 代表
平島雅治	柏市 企画部企画調整課 副参事
鬼澤徹雄	柏市 市民生活部市民活動推進課 課長

協働コーディネーター名簿

増田泰子	ふそう会 代表 対話と傾聴の会かしわ 代表
松清智洋	名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 柏市民活動センター マネージャー
山本佳美	(特活)ちばMDエコネット 事務局長 (特活)コミュニティアート・ふなばし 副理事長

1 二次選考（最終選考）結果及び通過案への提言

二次選考会では、6件の提案の内、一次選考会を通過した1件の提案についての最終選考を行い、次の協働事業の実施を市に提言することとした。

提案事業名	安全教育支援事業 (当初提案時:CAPワークショップの実施)
提案団体名	CAPなのはな
合議結果	ニーズ及び公益性が高く、今後の発展性が認められるので、協働事業としての実現を望む。

選考結果概要

1 事業内容	子ども・親・地域に住む大人・教職員を対象にCAPワークショップを実施し、子どもの心と体への暴力防止を図る。 <市の役割> ・市の安全教育事業メニューのひとつとして子どもワークを提供 ・PTAが家庭教育学習の一環として大人ワークを選択した場合、既存の支援制度により費用補助する <提案者の役割> ・各CAPワークショップの実施 ・教職員ワーク実施への働きかけと費用負担
2 事業経費	【概算事業経費 2,530,000円】 <内訳> 大人ワーク代：20校分(昨年度実施校16校+見込み4校) @30,000円×20校=600,000円 子どもワーク代：柏市内41校分(4年生115クラス) (参考資料参照) 1,930,000円
3 事業の目的及び効果への主な意見	・時代のニーズに合う事業であり、協働の波及効果が期待できる。 ・事業インパクトを与え、学校の裁量で運用可能となるよう、担当課(安全対策室)の尽力を期待する。
4 事業の内容への主な意見	・ワークショッププログラムの専門性に対する費用対価を意識し、ワークショップ実施者の質の確保に努めてもらいたい。 ・安全教育メニューを各校に紹介する際には、担当者がその内容を体験・現場見学するなどして、充分理解した上で周知されたい。 ・各ワークの実施バランスを考慮しないと効果が薄れるのでは。教職員ワークの時間確保に努力して欲しい。

5 事業の実施方法・体制への主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・提案者と関係部署の連携を図り，しっかりとした体制で取り組んでもらいたい。 ・協働を育てていくことも課題である。協働事業としての特性・効果が見出せるよう，今後も協議を進めてもらいたい。 ・当事業によりCAPの専門性を高め，持続的な組織運営が可能となるよう，組織基盤強化にも取り組んでほしい。 																								
6 事業経費への主な意見	<p>事業に要する市費は少額とはいえないが，事業実施によって学校・PTA・子どもたち自身の安全意識改革が加速されるのであれば，充分許容しうるものである。各学校には制度趣旨をくみ取って真摯な判断をしていただき，当事業を契機とした一層強固な「子どもの安全を守る体制づくり」への取り組みを望む。</p>																								
7 選考結果	<p>合計得点 283点 (360点満点中270点以上通過) 各項目別 (60点満点) ニーズ : 52点 必要性 : 44点 実施体制 : 38点 費用効果 : 44点 実現性 : 54点 (30点満点) 協働姿勢 : 26点 波及性 : 25点</p> <table border="1" data-bbox="496 1122 1407 1615"> <thead> <tr> <th></th> <th>選考委員</th> <th>協働リーダー</th> <th>市関係課(調整結果)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>協働事業として実施することが望ましい</td> <td>4名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能</td> <td>2名</td> <td></td> <td>生涯学習課 指導課</td> </tr> <tr> <td>共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>協働事業として取り組むことは難しい</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(その他)</td> <td></td> <td></td> <td>学校安全対策室 (学校の安全教育メニューの選択肢に位置付けて実施可能)</td> </tr> </tbody> </table>		選考委員	協働リーダー	市関係課(調整結果)	協働事業として実施することが望ましい	4名			多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能	2名		生涯学習課 指導課	共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案				協働事業として取り組むことは難しい				(その他)			学校安全対策室 (学校の安全教育メニューの選択肢に位置付けて実施可能)
	選考委員	協働リーダー	市関係課(調整結果)																						
協働事業として実施することが望ましい	4名																								
多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能	2名		生涯学習課 指導課																						
共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案																									
協働事業として取り組むことは難しい																									
(その他)			学校安全対策室 (学校の安全教育メニューの選択肢に位置付けて実施可能)																						
8 協働事業の主担当として望ましい部署	<p>学校教育部 学校安全対策室</p>																								

《選考委員会による総合意見》

一次選考からの調整協議において実現可能なレベルへよくブラッシュアップされている。委託という事業形態ではないが，ニーズ及び公益性が高い事業であり，提案者の事業に対する専門性が活かされ，事業の今後の発展性が認められるので，講師派遣謝礼支出による協働事業としての実現を望む。

2 最終選考を終えて(協働事業提案選考委員会委員長 大内田鶴子)

選考委員会においては、個々の提案について活発な議論を行い、丁寧な評価に努めてきた。経過中に注目した点と制度運用について感じた点を列挙したい。

提案件数は微増であったが、事業手法が協働事業よりむしろ補助金になりむものや、提案団体の実行体制が整っていないものなども散見された。広く提案の門戸を開くとともに、協働のパートナーとしての団体育成も両輪の課題であると感じた。

提案前の事前調整等で提案者と関係部署が顔を合わせ、お互いの認知や気づきを得ている。日常業務レベルで市民公益活動団体との接点を増やしていくことによって、提案の質・協働関係の向上につながると考える。

一連の調整・協議プロセスを通じて徐々にではあるが、『協働による課題解決』の視点を持った市職員が育ちつつあるのを、感じることができた。

一方、横断的な課題については、提案者との協働はもとより、庁内の横の連携なくしては効果が期待できないものもある。組織として、主担当課を中心とした部局間の取り組み体制をいかにつくれるか、全庁的な職員の協働意識の醸成が必要である。

当該制度が浸透しつつあることを踏まえ、当面は大幅な変更はせず、これまでの流れを中心として実施することを基本としたい。また、事前相談を充実させるとともに、市として協働で取り組みたいと考えている事業をテーマ提案として実施する方法も検討されたい。

市民のまちづくりへの興味・関心を高めるとともに、他の市民公益活動団体と活動成果を共有するためにも、採択された提案事業の今後の実施状況等について、通年的に広報していくことを望む。

3 今年度の経過とプロセス改善への取り組み

協働事業の推進にあたっては、この制度自体を『成長・発展するシステム』として位置付け、具体的な事例を積み重ねながら、より良い仕組みづくりを進めている。今年度は昨年度の流れをベースとしつつ、いくつかの改善を行った。

(1) 経過

提案募集告知

- 【広報】広報かしわ（4月15日号3面特集）、ホームページ、チラシ配布、メーリングリスト
- 【説明会】4月24日（金）午前10時から正午 参加者18名
協働事業提案制度ガイドラインにより全体の流れと手続きを説明



提案募集

- 【募集期間】4月16日から5月31日まで（約1ヶ月半）
- 【募集件数】6団体6件の提案（参考資料1参照）



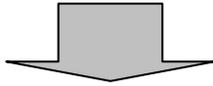
一次選考会

- 【日程等】7月2日（月）午後4時から6時
- ・選考委員会（大内田鶴子委員長ほか5名）による書類審査を実施
- ・審査にあたっては、提案者及び市関係課に対する事前ヒアリング状況について事務局からの説明を受ける
- ・6件の提案中、1件の提案について二次選考会に進むことを決定



調整・協議期間

- ・二次選考会（10月5日）までの約3ヶ月間
- ・提案について、提案者と市関係課による情報収集、打ち合わせ等を通じて、事業化の可能性を検討するとともに課題等の整理を行う
- ・協議には、提案者、担当課、協働コーディネーター、事務局が参加し、延べ9回開催



二次選考会（最終選考会）

【日程等】10月5日（金）午後6時から8時 参加者19名

- ・一次選考会通過案の調整協議の経過及び検討結果について，提案者，市関係課，協働コーディネーターにヒアリングを実施
- ・各選考委員による個別評価後，合議により「協働事業として実施することが望ましい」との選考委員会の見解を決定



選考委員会から市への提言

- ・11月13日（火）

(2) 昨年度からの改善点

提案しやすい仕組みづくり「提案募集説明会」

柏市民公益活動補助金制度との混同を避けるため，単独開催とした。
提案制度の詳細な説明及び提案者と関係課の事前調整を行った。

サポート体制の強化「協働コーディネーターと提案者の事前ミーティング」
市事業関係課との具体的な調整・協議に入る前に，担当する協働コーディネーターが提案趣旨の確認を行なった。

事業見守り体制の強化「ふりかえり会議の実施」

今年度スタートした2件の協働事業について，会議進行役の協働コーディネーターの他，該当提案の成案化調整を担当した協働コーディネーターを加え，進行状況の確認と具体的なアドバイス等を行った。

4 今後の制度運用における重点課題

募集から成案化までのプロセスの中で、当該制度において今後重点的に取り組むべき課題が明らかになってきた。次の2点について今後検討されたい。

(1) 提案しやすい仕組みづくり

提案前のアイデア段階での事前相談の強化

制度導入3年を経て、提案件数が少数で落ち着く傾向にあり、それに伴い提案の実現性と質の向上を求めていかなければならない側面が浮上してきた。提案件数が少数で落ち着く傾向にあるのは、そもそも「協働」の対象となる一定の力量を備えた団体が、地域にはまだまだ少なく、どちらかと言えば、「補助」の段階に相当する団体が多いものと考えられる。

また、制度自体のプロセスの重さや複雑さが敬遠されているふしもある。この点については、上記の提案件数の少なさとも関連し、アンケートやインタビューなどの調査による検証が必要と思われる。

提案前の事前調整は、行政職員の協働の姿勢を示す機会でもあり、提案の質の向上だけでなく、市政や制度の相互理解につながることを期待される。

(2) 明確かつ効果的な選考方法の確保

調整協議の充実と選考過程の見直し

プロセスの要ともいえる調整協議に充分時間を取れるよう配慮し、重複事務の改善や事業化スピードの向上を念頭に第一次及び第二次選考の位置付けを再考されたい。評価・選考に際しては客観性の確保に努め、“共に育つ”視点を持ってあたるよう、各委員に周知が必要であろう。

選考後のフォロー

選考結果の具体的理由や、改善方法を明らかにして提案者に伝え、今後の団体運営の参考やリトライ提案への動機付けにつなげていけるよう、事後フォローに留意されたい。

5 まとめ

平成19年度の協働事業提案は、提案件数は微増ながら、協働の観点が反映された提案が少なく、市民にとって、わかりやすく利用しやすい制度への見直しが迫られていると感じている。前項に挙げた課題について検討していただき、協働効果が存分に発揮されて市民へ利益が還元される仕組みづくりを進めていただきたい。

当制度のプロセスによって、協働の芽が育っていくことを喜ばしく思う一方で、調整協議等の報告を聞くと行政側に協働の進め方に対する迷いもまだ見受けられるようである。市民との協働を施策の柱に掲げながら、行政の対応によって市民の公共領域に対する熱の高まりや期待を失うことのないよう、『パートナーシップ型の行政職員』がなぜ求められるのか、そうした職員の資質向上には何が必要なのかを見つめなおす機会の必要性を感じる。

また、提案者においても、成功事例を積み重ね、各部署や他の市民公益活動団体との接点を増やして事業力強化に努め、市民の自治力の向上を目指していただきたい。協働モデルとして、体験から得たノウハウを共有することでさらに公益化した存在になり、後続の団体もしくは市民自身のエンパワーメントの一助となって欲しい。

現行制度は、市民側の発意による提案を想定して基本設計をしているが、これまでも、個々の現場においては行政側の発意による協働事業が行われてきた。この制度による協働事業として総合的・体系的な取り組みを進めることで、多くの市民公益活動団体との一層のパートナーシップへの道が広がることを期待する。

今後、選考通過した提案事業の内容、選考委員会としての見解、制度の改善点などの事柄が盛り込まれたこの提言を受けて、事業の具体化に向けて次の段階へと進むこととなる。特に市長をはじめとして関係各課の皆さまには、この提言に対する誠実な判断をお願いするものである。

最後に、選考委員会の各委員、協働コーディネーターが多くの時間と労力を割いて、選考・成案化調整・検討を重ねてきたことを報告するとともに、今年度の協働提案制度の運用に関わったすべての方々への感謝の意を表し、まともめとしたい。

平成19年度 協働事業提案の状況

「網掛け」部分：一次及び二次選考会を通過した提案。

	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負担額)	市の事業関係課
1	年金・労働 相談研究会	年金相談の 実施	年金窓口の恒常的な混雑の解消 と、市民満足度向上のため、既存 の相談事業との振り分けをして相 談を行う。	402,000 円 (388,800 円)	保険年金課
2	地域支援委 員会	地域子育て 支援のため の訪問相談 の実施	1 市内企業を対象に子育てに 関する制度や労務問題につ いての訪問相談 2 保育施設を訪問し、子育て世 代の仕事と家庭生活の調和につ いてヒアリング調査	780,000 円 (605,000 円)	児童育成課 保育課 商工課 男女共同参画室
3	(特活) 柏・ 地域福祉ネ ット“風の 木”	地 域 高 齢 者・介護家 族支援施策	1 介護家族講座、ふれあいヘル パー養成講座の実施 2 講座修了者を中心にした地域 でのショップ展開やヘルパー派 遣	2,910,000 円 (600,000 円)	高齢者支援課 障害福祉課 商工課
4	美しい地域 づくりの 会・花ごこ ろ	戸張地区で の環境美化 活動	1 コミュニティガーデン 2 ストリートガーデン 3 小規模公園の維持管理 4 戸張地区公園の維持管理 5 花苗の大量安価供給システム の構築	3,430,200 円 (2,572,650 円)	南館クリーンセンター 都市計画課 公園管理室 道路維持課 下水道維持課 (みどりの基金)
5	C A P なの はな	安全教育支 援事業	子ども・親・地域に住む大人・教 職員を対象にC A Pワークショップ を実施し、子どもの心と体への 暴力防止を図る。	3,160,000 円 (2,530,000 円)	生涯学習課 学校安全対策室 指導課
6	(特活) 牧場 跡地の緑と 環境を考え る会	中原ふれあ い拠点 - 防 災公園共用 地利用プロ ジェクト	中原ふれあい防災公園隣接の共用 地利用について、住民アンケート 調査や近隣の公共施設の実態調査 等を行ってとりまとめ、地域拠点 施設の提案をする。	747,000 円 (747,000 円)	企画調整課 広報広聴課 公園緑政課 保健福祉総務課

...事業の主担当課

提案書様式3「収支計画書」抜粋

「子どもワークの積算について」

柏市内の学校におけるクラス数とワーク代

	学校名	クラス数	こどもW		教職員W	大人W
			1クラス	2クラス以降		
小学校	柏第一	5	20,000	60,000		30,000
	柏第二	6	20,000	75,000		30,000
	柏第三	4	20,000	45,000		30,000
	柏第四	3	20,000	30,000		30,000
	柏第五	5	20,000	60,000		30,000
	柏第六	1	20,000			30,000
	柏第七	3	20,000	30,000		30,000
	柏第八	4	20,000	45,000		30,000
	豊	3	20,000	30,000		30,000
	旭	2	20,000	15,000		30,000
	旭東	2	20,000	15,000		30,000
	高田	3	20,000	30,000		30,000
	名戸ヶ谷	2	20,000	15,000		30,000
	光ヶ丘	4	20,000	45,000		30,000
	酒井根	4	20,000	45,000		30,000
	酒井根東	2	20,000	15,000		30,000
	酒井根西	2	20,000	15,000		30,000
	中原	4	20,000	45,000		30,000
	土	2	20,000	15,000		30,000
	増尾西	3	20,000	30,000		30,000
	土南部	4	20,000	45,000		30,000
	逆井	2	20,000	15,000		30,000
	藤心	2	20,000	15,000		30,000
	富勢	4	20,000	45,000		30,000
	富勢西	2	20,000	15,000		30,000
	富勢東	1	20,000			30,000
	田中	3	20,000	30,000		30,000
	十余二	3	20,000	30,000		30,000
	花野井	2	20,000	15,000		30,000
	田中北	1	20,000			30,000
	西原	4	20,000	45,000		30,000
	松葉第一	3	20,000	30,000		30,000
	松葉第二	4	20,000	45,000		30,000
	風早南部	2	20,000	15,000		30,000
	風早北部	2	20,000	15,000		30,000
	手賀西	1	20,000			30,000
	手賀東	1	20,000			30,000
	高柳	4	20,000	45,000		30,000
	大津ヶ丘第一	2	20,000	15,000		30,000
	大津ヶ丘第二	2	20,000	15,000		30,000
	高柳西	2	20,000	15,000		30,000
合計	41	115	820,000	1,110,000		1,230,000